

「ナンデモ絵筆で描こう」の実践報告

—あいちトリエンナーレ 2010 での子どもとの造形活動—

江 村 和 彦

1. はじめに

あいちトリエンナーレ 2010 は現代美術、音楽舞台芸術の最先端の表現を一堂に会した 3 年ごとに開かれる国際芸術祭で、2010 年 8 月 21 日から 10 月 31 日まで開催されたものである。愛知芸術文化センターを会場の中心にしてコンサートや作品展示などが開かれ、中でも現代美術の会場は愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市中区長者町会場、同市中区納屋橋会場と分かれ、美術館の中だけでなく住居、店舗や倉庫などを表現の場所として展開し多くの人を訪れた。そこは世界各地から集まったさまざまな芸術作品が展示されただけでなく、アーティストと参加者が一緒になってワークショップを行い、鑑賞するだけでなく描いたりつくったりしながら現代美術を体感する機会のある場にもなっていたのである。その中で子どもたちにも現代美術を身近に感じることができるよう創作体験企画としてキッズトリエンナーレが開催された。本報告はキッズトリエンナーレの企画のひとつである、あいちワークショップの活動「ナンデモ絵筆で描こう」の実践をまとめたものである。

2. キッズトリエンナーレの概要とあいちワークショップ

現代美術やものづくりワークショップを企画のテーマとしたキッズトリエンナーレのねらいは「いつ来ても解放されている空間で、子どもたちが様々な人々と交流しながら創作活動を行い、その作品も展示をする。」というものである。具体的プログラムとして以下の 5 つがあげられる。

- ① アーティストによるワークショップ
- ② 造形講師による講座
- ③ 子どもや家族を対象としたガイドツアー
- ④ 未就学児童（幼児）対象のプログラム（平日：造形プログラム、夏休み・祝日：紙芝居）

- ⑤ 子どもや家族を対象としたガイドツアー
 - ⑥ ワークショップにて制作した作品の展示
- ※ 1

活動の拠点として愛知県芸術文化センター8階展示室Jをデンススタジオと称し、シートや壁を作り養生してその中でさまざまな造形活動が出来るように設置された。活動の対象は就学児童、小学生、中学生及び保護者とし、期間中は常時指導員を配置し入場無料でいつでも自由に創作できる空間が用意された。そこには様々な種類の紙、絵の具やクレヨン、はさみ、のり、木工用ボンド、テープなど造形に必要な材料が豊富に揃えられた。また土日、祝日にはアーティストや造形を専門とする講師が半分の空間を使ってワークショップを開き、子どもたちと造形活動を展開した。筆者が参加したあいちワークショップは、②の造形講師による講座であり、全12回の造形活動を展開する。それは愛知県の各地域の「ものづくり」や伝統文化、素材をキーワードにしたものである。(図2)



図1 キッズトリエンナーレ チラシ

	タイトル	素材		タイトル	素材
8/22	つなげてならべて 凸凹ロード	名古屋桐だん す	9/23	マイ・文字・オブジェ	春日井市書家 小野東風
8/26	くるくるまきまき繭玉 をつくろう	刈谷市の蚕	9/26	布のしゃぼん玉を とぼそう	一宮市 織り物
8/29	いぶし瓦で打楽器づく り	高浜市いぶし 瓦	10/10	ヒラヒラ開く 染めの世界	有松 絞り染め
9/5	感じたままにクレイワ ーク	常滑焼の土	10/11	わっしょい！僕らの 鯛みこし	吉良町 祭り
9/19	キラキラ☆モンスター	瀬戸市リサク イクルガラス	10/17	ビリ・クシャ アートなぼうし	小原和紙
9/20	現代を生きる 私の継色紙	碧南市 藤井達吉	10/31	ナンデモ筆で描こう	豊橋市 筆

図2 あいちワークショップ全12回タイトルと素材・モチーフ

3. 「ナンデモ筆で描こう」の活動準備

あいちワークショップ 12 回の造形活動は愛知県の特産品や伝統工芸品など、著名な作家の業績に由来するものとなった。筆者は豊橋の筆に焦点を当て、実際に子どもたちと筆をつくってその筆で描くという企画を進めることにした。豊橋筆の筆工房・杉浦製筆所を見学し、様々な筆づくりの過程でどのあたりが子どもにもできるかなど、相談しながら企画を練り上げていった。すると当然ではあるがかなりの時間と労力を必要とすることが分かった。また小学校で体験を行う場合は筆の軸に穂先を接着するだけの簡易的なものだった。相談の中で同時に一つのアイデアも浮かび上がってきた。それは植物の根や使い古した雑巾で書く書道家もいるという話をヒントに、普段は筆として使われないもので描くとどうなるのか？造形教育の技法指導モダンテクニックの手法を取り入れて、広い空間で全身を使って様々な素材に絵の具を付けて塗りつぶすほうが活動として面白いのではないか。身の回りの様々な道具を筆に見立てて描いていこうという企画に修正した。「ナンデモ筆で描こう」というタイトルをつけ、絵の具をつけて描くことが可能な素材をさまざま取り揃えて、会場全体を絵の具でいっぱい埋め尽くし、体全体を使って描く楽しさを実感できるものへと昇華していけることをねらいとした。

「ナンデモ絵筆」の活動に用意した描く道具類は、比較的手に入りやすい 100 円均一の量販店やホームセンターで購入し、事前に描き心地を確認しながら道具を揃えていった。種類は以下のとおりである。

絵の具 アクリル絵の具（画材メーカーからの提供）

容器 バケツ 15、バット、10、ペットボトル 15 紙容器 30（写真 1 参照）

描く道具 大型洗車スポンジ 3、食器用スポンジ（大小） 50、ふわふわスポンジ 20、柄付スポンジ各種 10 スポンジ筒片 15 本 トイレブラシ 7 たわし 5 個 吸盤 4、発砲スチロール片 15、霧吹き 7、モップ 4、割り箸 30 膳、輪ゴム(平ゴム)20、ラップの芯 20 本、イボイボの付いたボール 9 個、粘着シート付ローラー 6 本、麻ひも 1 ロール、自分の手足（写真 2）

4. 当日の活動の流れ

大まかな活動の流れは以下のようになった。

「豊橋の筆を紹介し、筆はいろんな素材からできていることを伝えたいので様々な素材で描いてみよう。ひとり一本自分の大きな木を描き、隣どうし手をつなぐように描こう。絵の具の森が出来たら真ん中の紙にみんなでお花畑を描こう。」

日時：2010 年 10 月 31 日 14：00～16：00

場所：愛知県芸術文化センター 8 階 J 室内

活動援助：名古屋経営短期大学子ども学科 3 年生 8 人

撮影係：3 人

タイムスケジュール

- 12:00 現地集合 当日の段取り説明、役割分担
12:30 活動環境の準備 (壁面の紙、床面の紙)
13:00 描画材料の準備 (絵具、ナンデモ絵筆の準備)
13:30 参加者受付開始
14:00 ワークショップ開始 挨拶・スタッフ紹介
14:05 内容紹介「ナンデモ絵筆で描こう」
14:10 道具の説明・実演・自家製カッパ着用 (ビニール袋配布)
14:15 活動開始「壁面の白い紙に一人一本木を描こう」(写真 3,4)
14:50 休憩 (手洗い・水分補給など) お互いの絵を鑑賞
15:00 活動再開「床に敷いた紙に自由に描き花畑をつくろう」(写真 7.8)
15:45 活動終了 (全員で活動の振り返り、記念撮影(写真 9)、アンケート記入)
16:00 参加者退出、完全終了
後片付けの後スタッフで反省会

まとめ

活動には小学3年生から6年生まで20人の子どもたちが参加した。活動は円滑に行われ、子どもたちは時間が経つにつれてどんどん大胆になり、さまざまな道具だけでなく手や足の裏で描く子も現れ文字通り体全体を使った描く活動になった。アンケート結果は以下のような回答が得られた。

「いろいろなものを使って絵をかくのは初めてだったしびっくりした。」「描いた後のまわりの雰囲気カラフルできれいだった。」「手や足を使って作る絵はとっても楽しかったです。こんなに大きい紙で描いたのは、はじめてだからなのしかったです。」

全身を使って絵を描くという活動や同じ空間で作業してひとつの絵を完成させることは子どもたちにとって普段経験することのない貴重なものだったのではないか。描きながら絵がためらいなくダイナミックに変貌していく様はそのまま描いている本人の感情や思いを投影しているようでとても感動を覚えた。今後はよりテーマを絞りながら素材を生かした造形活動を提案し、子どもたちの描く活動を研究していきたい。

【引用文献】

キッズトリエンナーレ チラシ あいちトリエンナーレ実行委員会 (2010)

※1 キッズトリエンナーレ「あいちワークショップ」第2回講師打ち合わせ資料
あいちトリエンナーレ実行委員会 (2010)

(名古屋経営短期大学子ども学科 講師)



写真 1.2 さまざまな素材の「ナンデモ筆」



写真 3.4 「白い紙に一人一本木を描こう」

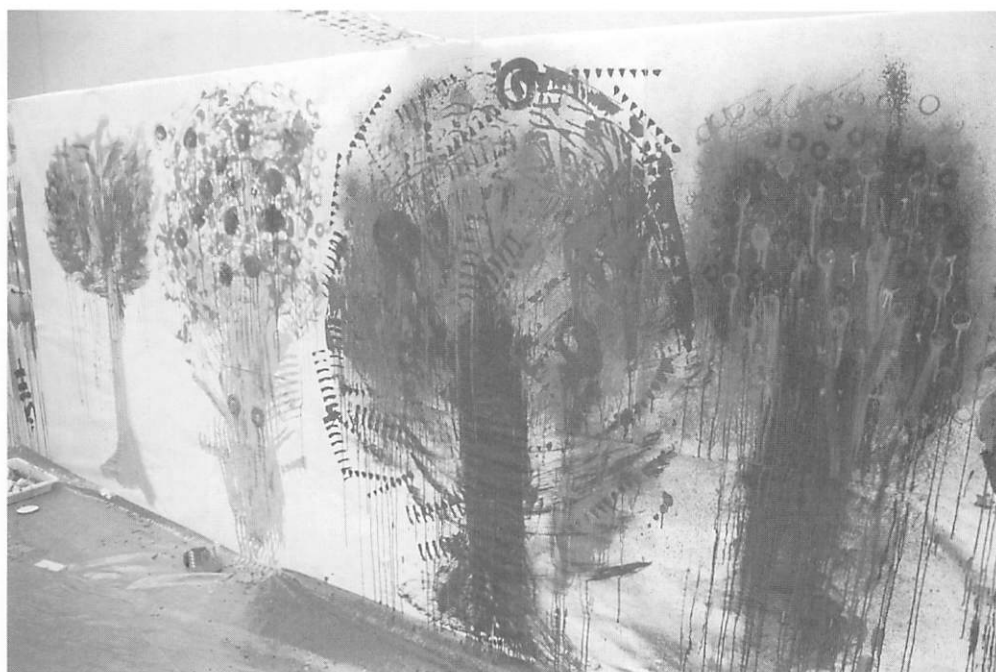
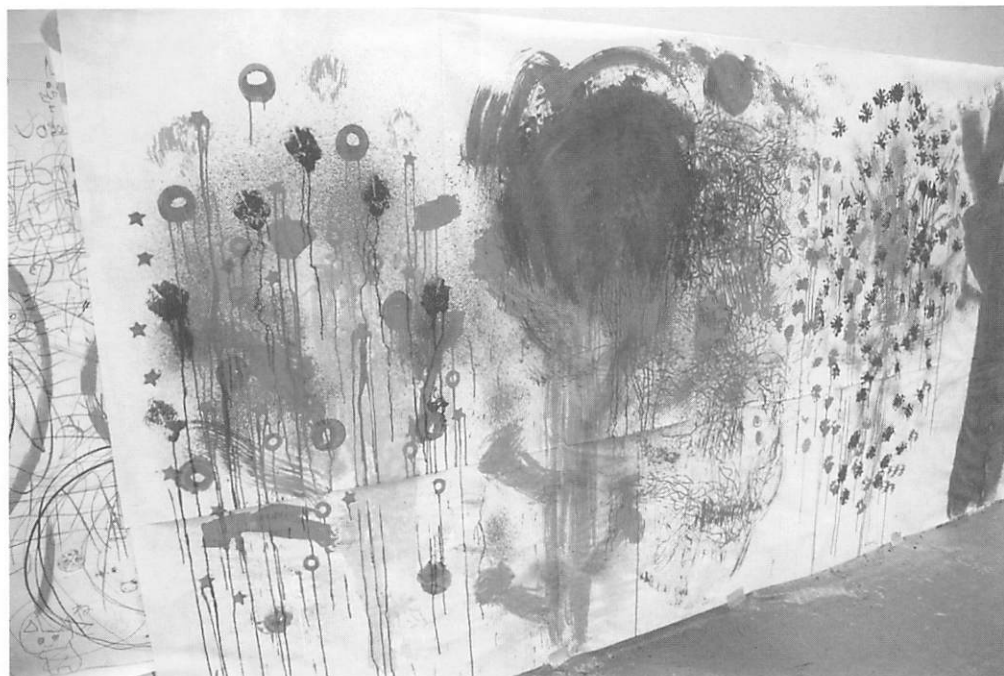


写真 5.6 ささまざまなナンデモ筆で描かれた木々たち



写真 7.8 「床に敷いた紙に思い思いに描き花畑をつくろう」



写真 9 みんなで記念撮影